

2022年度GTセミナー 第56回保育環境セミナー 人的環境編④

第307号 2023年1月16日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

人的環境編④

2022年12月12日～14日に「第56回保育環境セミナー」
(人的環境編)を開催しました。

オフライン参加は約100名、オンライン参加は60施設を超える
お申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「人的環境」につ
いて考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けて人的環境編をお送りする最終回です。

第56回保育環境セミナーメールマガジンバックナンバー

- ・空間的環境編 本誌第280号～283号
- ・物的環境編 本誌第292号、293号、295号、296号
- ・人的環境編 本誌第303号、304号、306号、307号

<https://www.caguya.co.jp/mimamorujyu-magazine/>



保育環境セミナー

今、子どもに必要な
保育の「考え方」と
「環境」を学ぶ。

空間的環境編	物的環境編	人的環境編
7/4, 5, 6	9/5, 6, 7	12/12, 13, 14
くうかん	もの	ひと

保育環境セミナーは各編3日間の日程です

1日 園見学 + 2日 講演・実証発表 + 3日 園見学

第56回保育環境セミナー Q&A②

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

今回、オフラインでセミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

【年齢別保育と異年齢児保育】

Q1.年下のお友達の援助をしてあげたいと言う気持ちがある年上のお友達がありますが、援助がしたいと言う気持ちが強く、その子についていって一人で出来ることも援助をする。年下のお友達は出来ることまでしつこくついてくるので、嫌な気持ちになっていることがあります。援助してくれている子に、何と声をかけたらいいか教えていただきたいです。

私の園でもお手伝い保育があった時に自己評価があります。お手伝いは、ある意味子どもは好きです。ですから、自分でやりたい子にも、手伝ってしまうこともあります。私の園では、それに気づくために、お手伝い保育のお手伝い保育の究極は、小さい子の気持ちに気づけるかです。お手伝いは助けることではなく、その子が何をしたいかに気付いてあげることを繰り返し伝えていかないといけません。ですから、自分でやりたかったら自分でする。手伝ってほしがっているのなら、手伝ってあげると、その子の気持ちを感じてあげる。お手伝い保育の自己評価の中に服を着せるのを手伝ったか、一緒に遊べたかの中に、気持ちに気づけたかがあります。逆に手伝ってもらった時期があったから、わかるんですね。4月当初、お手伝い保育から戻って来て自己評価をした時のつぶやきで、「早く小さい子の気持ちがわかりたいな」と言っていた。一体やってほしいのか、一人でやりたいのか分からないから、早く気づけるようになりたいと言っていた。極端に言えば、手伝わないことですね。お手伝い保育の中で、先生が手伝わないで遊んでしまう子がいると苦情をいうことがある。1歳の部屋に年長さんが行くと、やたらと遊んでしまうというが、私はそれは立派なお手伝いだと思っています。1歳の子からすれば、年長がどう遊んでいるかを見るのが参考になる。いなくなってから遊びのグレードが上がります。必ずしも遊んで、と怒る必要はないですね。遊び方の手本を見せることもお手伝いです。そういう積み重ねをすることで、人の手伝いをするようになるので、もともと援助することが好きなので、基本的には子どもは、援助する気持ちを持っていると言われます。それに対して、大げさに褒めないこととされています。簡単にありがとうと言えばいいとされています。そうじゃないと、褒められてやることだと思ってしまう。人を助けることは、人間がもともと持っている遺伝子があるわけなので、困っている人がいたら助ける。サルと人間の違いがはっきりしているところです。例えば、物を落としたときに1歳半の赤ちゃんは拾ってくれます。同じように同じ知能を持った4歳のチンパンジーも拾ってくれます。しかし、両手がふさがってドアが開けられない場合、開けてくれるのは赤ちゃんだけで、チンパンジーは開けてくれないとされています。何か支障があってできない時に助ける人の気持ちまで共感できるのは、人間だけとされています。困っている人を見ると、手助けをされると言われているので、あまり褒めないことが注意されています。あまり援助してくれることに大げさに褒めず、普通にありがとうと言えばいいことだと思います。もう少し年長になると、必ずしもやってあげることだけではなく、小さい子の気持ちに気づけることが大事だと教えていくことです。それをやってあげることで嬉しんじゃないということだと思います。

【保育士の対応】

Q2.見守る保育において、大人がどこまで介入すべきか迷う部分があります。様々な大人の関りがあるからこそ、子どもが成長していくと思いますが、4,5歳児の話し合いにおいて、大人はどのように話を進めていけば良いのでしょうか？話し合いに参加しない子、集中力が切れてしまう子、様々な子どもの姿にどのように大人は対応すべきか教えてほしいです。

ある団体がうちで研究をはじめています。共同で子どもが作業をするときに、どういう時に大人に介入をしてほしいかということを見守る保育の園と、そうでない園で、どういう時に大人を求めているかを研究しようとしています。この間、新しいおもちゃを持ってきて、子どもたちのグループに、「何か大きなものを作ってみて、先生が必要だったら、3回質問していいよ。」と相談権を渡し、どういう時に大人に相談するかをやってみました。ちょっと困って、ある子が先生に聞いてみようかという、自分たちでもう少し考えようと話し合いをすることがあって、今回の研究の目的は、こういう保育が日本に必要なんだと政府に訴えたい。子どもたちが先生に頼らないで、自分たちで話し合うことが増える想定なんです。それは親として実感があるそうです。うちに来ると、先生に許可を得ずやっていることがあるので、これは積み重ねだろうと言っている。犬を散歩している人に「お宅の園児は特徴がある」と言われた。それは、犬を散歩していると、「犬に触っていい？」と聞いてくるが、他の園は「この犬触っていい？」と先生に聞くそうです。うちの園児は、飼い主に聞くそうです。飼い主からすれば、犬を連れている人に聞いてほしいのに、他の園は保育者に聞いて「うん、いいよ」と極端に違っていると聞いていた。何で先生に許可を得るのか。これはたぶん、いろいろなことを許可を得ているんだろうなと思います。先生がどこまで介入するかは、基本的に子どもが介入して欲しい時は言うてくる。そうじゃない時は、自分たちでやることなので、特に介入をしない。先生が迷う必要はないですね。必要だったら子どもは言うてきますからね。迷うなら、相談カードを3枚渡して、どういう時に言うてくるかですね。どういう時に介入して欲しいかですね。例えば、一緒に遊びたいだいたいいいと思います。一緒に遊びたいなら、一緒に遊んであげたらいいし、そうじゃない時は自分たちで遊ぶかもしれません。これを先生が入りたがるのは問題があります。先生は加減してくれるからですね。家で親に大事にされた子は、大人と遊びたがるんですね、それは加減してくれるからです。そういう子は、先生を相手にしたがります。子ども同士だと負けますからね、本当は子ども同士にさせた方がいいと思います。ですから、応答的保育は、言われたら関わるといことです。小さい子からそういうことを積み重ねていく。ただし専門性が必要なのは、小さい子の場合は泣いたり、すねたり、反抗するのは関わってほしいサインの可能性が高いです。それを先生は先回って思いやらないこと、こっちを向いて不貞腐れたり、こっちを向いて泣かないとだめですね。気づいてくれるだろうで泣いていても、気づかないことを言わないといけない。子どもは分かっている、甘えて泣くときは、先生を向いて泣かないです。泣いている子どもでも、他の子に来てほしい時は、他の子に向かってわざと泣きます。先生にしてほしい時は、先生に向かって泣きますので、これは見極めないといけません。迷わないで行って来たならやる。抱っこ年長さんが言うてきても、やってあげる。これは理由があることを信じることです。いつでも言うてくると言ったら、いつでも抱っこしてあげたらいいです。ただし、依存関係にある場合はダメですね、共依存と言って、先生が抱っこすることを気持ちよくなってはダメですね。いい先生なんだ、快感を覚えてくると、子どもは察して、必要ないのに抱っこ言うてきますね。ですから、そういう子どもに依存しないことが必要です。そうすると子どもは必要な時に言うてきますので、やってあげればいい。その理由は、家庭の出来事やいろいろな出来事があって、癒されたいからということがあります。アタッチメントですね。子どもが必要な時に、大人の安心基地として求めてくる。その時は、安心基地として受け止めてあげないと、そこからまた飛び出していけないということです。だけど、いつも一緒にいる、そばにいる

は、依存関係でアタッチメントではないと思います。アタッチメントは、離れていくために必要な基地であるべきです。離れないで、いつもいるのは安心基地ではないです。離れることに対して、いい気持ちをしない、そうすると、依存してくるので、気を付けないといけません。子どもは、もともと集中しないので、時間も仕方ないですね。面白くないものは参加しないですね。先ほどの研究ではないが、一つの物を作るときに相談をします。一番最初に、何を作るからそうだが、その時の話し合いの相談の方が、よっぽど話し合いです。改めて、さあ話しましょうと言っても、中々無理です。そうじゃなくて、一つのことをみんなで取り組んだら、当然話し合いをしないといけません。ただ、研究を持ち掛けた人ががっかりしたのが、これで大きなものを作って。何を作ればいいのかを相談して、と言ったら、相談する場面が撮れると思ったら、家を作ろうと言ったら、そうだと言って合意して、すぐに作りはじまってしまったそうです。話し合いで、隅にいた子もいたそうです。なんで話し合いをしないで、離れているのだらうと思ったら、その子は役割を分かっている、一人で屋根を作っていたそうです。時間制限があって、最後に黙々と作っていた屋根を最後に載せた。これも共同で、常にわいわいしていなくても、一人でやっても、その子のタイプなので、みんなでやりなさいという必要はないですね。これは私の孫を見ていても、みんなの前で意見を言わないですね。慣れるとおしゃべりですが極端にシャイですね。それを参加しないこと判断されると可愛そうですね。そう思っただけでいいと思います。

【保育士の対応】

Q3.何かを決める時は子どもたちが話し合いで決めるのですが、各々の主張が強く、話し合うというより、気が済むまで意見の言い合いになる。テンションが上がり、よくない言葉が聴かれた際は声をかけるのですが、基本的には思いを伝えている姿を見守っています。各々が自分の思いを言い終わったら、みんなの意見がそろっていきます。その子たちの個性だと思うのだが、少しだけでも 違う考えの意見も聞いてほしいなあ、と考えてしまいます。子どもの話し合いでの職員のかかわりについてどうしているか教えていただきたいです。

安藤：子どもたちが先生をどこまであてにするかで、共同性でテーマで話し合っ、家を建てることがあったが、研究ではきれいな道筋をイメージして期待していた。ああじゃない、こうじゃないと喧嘩みたいなことが起きる。周りの子は状況を見ながら、できるところだけをしようかなと参加の仕方があったが、大人はどうしても、きれいな道筋をイメージしてしまうが、意外とそうではないのかなと。大人は1回で学ばせようとなるが、子どもは何回も繰り返して、少しずつ分かってくるので、この時に意見を聞いてほしいと保育士は執着しないでいいのかなと自分は捉えている。

昨年、成長展を変えたが、その中で欠けているのが共同作品が少ないと、共同作品を作るような工夫をするようにと、大きなものを作らせたがその経緯を早送りで見せた。シンガポールにあるタワーを真似て、ブロックで大きなものを作った。別の作り方でやってみようと言った子がいて、一度壊して、その子の言ったとおりにやったがうまくいかず、時間制限もあり、他の子たちのアイデアで作っていった。子どもは、大人が思うように話し合いをしていくことはあるわけではなく、自己主張しながら、うまくいかなかったり、みんなのアイデアを付け加えることで、うまくいくことを積み重ねることでもいいんだと。教えていくわけではないので、場面を設定していくことです。保護者はお迎えの最後しか見れないので、1日の中で作っては壊れてがあるので、アプリで1日を撮ったことがあります。それを保護者に見せたら、素晴らしいものを作るが、簡単に壊す。最後にちょこちょこ作ったのを保護者に見せることがあって、途中を見せようと1日の早送りを見せたことが

ある。保護者にいかに過程でこういう積み重ねをしているか、アナログで一瞬の姿だけを見て判断して欲しくない。いろいろな場面で話し合いをしたり、自己主張をして悔しい思いをして、だんだん社会を学んでいく場なので、最初から、大人が思ったような会議ができるわけではない。大人の会議を見ても難しいですからね。その中で話し合いが、素晴らしいアイデアができるのだと知っていけばいいと思います。

【保育士の対応】

Q4.みんなでもよりも、自分が楽しみたいという思いが強い子が数名おり、ルールのあるあそびをすると、他の子が楽しくなくなりあそびをやめてしまうみんなで協力するようなゲームや遊びを取り入れていきたいが、どう関わればルールの大切さや、みんなが楽しく感じれるようになっていけるかが難しいです。

自由遊びの大切さの研究があるんですね。アメリカのテキサス州で多くの人を射殺した事件が起きました。州では、ブラウンという精神科医に、どうしてそういうことが起きるのかの研究を委託した。射殺・殺人を起こして、死刑判決を受けている20名の成育歴を調べたら2つ共通点が見えた。一つは、小さいころから虐待を受けていた。もう一つが、自由遊びをしたことがなかったことがあって、どっちが影響を受けたかをアメリカ全土、6000人を対象に死刑囚の成育歴を何十年にも渡り調べた結果、自由遊びをしたことがないと分かった。その重要性が世界中に散らばるが、年々自由遊びの時間が減ってきている。アメリカは現在、ここ10年くらいで3/4減ってきている。大人は子どものためと思って、習い事、サッカーや野球、音楽教室へ行ったり、全て大人のルールのもと遊ぶところへ行っていて、子どもの発想の中で、遊んでいる時間がないと。それによって、事件が多くなったと、世界中で自由遊びをさせる時間ができています。自由遊びの大切さは、自分本位で遊ぶと、遊びが成り立たない経験が大事と言われています。例えば、子ども同士で騎士ごっこをしたら、全員がいい役をしたら遊びが成り立たない。たまには、役を交代しないとできない。お姫様ごっこでも、誰でもお姫様になっては成り立たない。ルールがあるとそういう決まりがある。ですから、子どもだけでルールのない時間を作るべきだと世界中で言われています。自分だけで楽しみたい子が、だんだん修正されていくと言われています、成り立たないからです。今の子どもたちは、自由遊びを中々作れないですね。日本はあまり少ないが、劇遊びごっこは役を替えるので譲り合うとか、ごっこもなりたいものをしていたら成り立たないので、役割を話し合っていかなないと成り立たない遊びを作ってあげる、取り組ませることが世界中で起きています。その中で広がったのが冒険広場。日本でもいろいろなところがあり、世田谷が有名ですね。自由遊び運動の一つです。大人がルールを決めない遊びを作ろうというのがある。逆に、ルールのない遊びの中からルールを作っていく。決めた中のルールに従わせるのではなく、自由遊びを成立させるために自分たちでルールを作っていくことをさせていこうとしています。少しそういう時間帯で、工夫してみるのも一つありかもしれません。家庭の中で、親とだけなので合わせてしまうので、集団で遊ぶ楽しさを知らない子が多いですね。先生が集団に入って、先立って楽しむことを見せることです。誰かがいるから楽しいとか、この役があるから楽しいとか、かつては地域の中でやっていたが、今は家庭の中で一人遊びが多いですし、相手が親が多いので、こういう悩みは多いと思います。もう一度集団を取り戻すのも園の役割かもしれません。

【保育士の対応】

Q5. お集まりや片づけの際の声掛けがどうしても大声（叫ぶような）になってしまいます。自分の声がおらないのかもしれませんが、なかなか聞いてくれないことが多いと感じます。昨日のせいがさんの様子を見て、そんなに大きな声をださなくても子どもたちが耳を傾けて聞いているなと感じました。どのようにすればさげなくても子どもたちが大人の話聞いてくれるようになるか知りたいです。

安藤：最近までクラスに入らず、3,4,5歳にヘルプで入ることが多く、たまに入った先生の話は聞かなかったりするが、最初は物珍しく聞いてくれるが、慣れてくるとワーとなってしまいが、「先生、喉が痛いから帰ると」言って、その場からいなくなり、他の先生が見るという流れでやっているが、次の先生が話して、戻ると、「大丈夫？先生ごめんね」と、演技ではないが、大人だからと言って、いつも楽しい話ができるわけではないし、つまらない話を子どももずっと聞いているのも嫌だし、だた、一生懸命話しているのだから、お互い気持ちよくやろうというのがあるので、話をしたら聞いてほしいし、声を大きくさせないでよ、という関係で持っていくと、そのあとは関係が良好に進んでいるかなと思います。

私が若いころ、絵画指導に年長さんに入ったことがあって、手の形をよく見て書こうとしたことがあった。手の型を取って、しわを書かせた。そうすると書かない子がいる。担任が気にして、やらせようとしていたが、私はいい、やらなくてと。指紋は折れ曲がるところにしわがあるので、紙に書いたしわに沿って折らせた。切り取って、手の動きになり、じゃんけんをしようと盛り上がったり、握手したり、キャーキャー言って楽しんでいると最初に書かなかった子が、どんどんつまらなくなり、こそこそとやり始める。例えば、選択制でプールをラッコ、いるかで入るかどうかを聞いていなかったら、水の怖い子で本当は蟹で入るところを、ラッコの時間帯に行ったら水の中に入ることになる。実際はそうはしないが、出欠も調理室に言って報告をするが返事をしないと給食がないので、それまでに来るとか、大人が必死に来させる必要はなく、子どもが聞かないと困ると思えば聞くとか、せいのが森の時は、支援室の向こう側でお集まりをしているときに、楽しそうにしているなと思うと当然来る。遊んでいる方が楽しかったら、つまらない方へは行かない。そこは力量で楽しいことを企画しないといけない。うちが有難いのは男性が多く、くだらないお集まりをしますね、他のクラスから見学があつたくらいです。お集まりの朝の会のうたを、鍵盤の書いてあるネクタイで弾くとか、突然アフロの髪をかぶって出てくるとか、くだらないことでキャーキャーしてそれをやっているとか、ある先生は席の後ろにマークが貼って、当たった子はラッキーガール・ラッキーボーイで、今日1日いいことがあると言って、競って座りますよね。すべて毎日そうはいかないが、キャーキャー言うこともいいわけですね、決まり切っていたら、行かなくて平気と思われたらいけないので、困らないことがある。ただし、うちの場合は参加しなくてもいいように参加しなくていい席もある。離れているけど席はある。参加したくない子は、そこへ行けばいい。とくに支援が必要な子は、そこにいる可能性が高いですね。みんなの中に入らなくても、話を聞いてもいい。ゾーンもやりたいことを選ぶ場所があるが、やりたくない子は拒否することになってしまうことになるので、やりたくないポーっとしたい子は、ピーステーブルに座っていていい。大人でも何もしたくないこともあるので、自分で意図して、やりたくない日があってもいいかなと思います。お集まりに来たくなければ、来ない場合は、ここに座ればいい席とか作るかですね。声掛けがなかなか聞こえなかったら、逆に小さく言うことですね。聞こえないから大きくするとエスカレートするので、どんどん小さくするとか、いろいろな工夫が必要ですね。

【保育士の対応】

Q6.現在、01歳児クラスの担任をしています。子ども同士が玩具の取り合いをしている時に、噛みつきのある子どもの取り合いはすぐに止めてしまいます。それでもいいのでしょうか。

噛みつきのある子どもは、取り合った場合でも噛みつく場合と、噛みつかない場合があります。噛みつく場合過去の例を見ると、過去の場面、相手、その時の状況で、噛みつくだろうという時は止めた方がいいです。人に危害を加えるときは制止をした方がいいです。それが伝染してしまうことがあります。どんな時に、誰なのかを検証しておく必要があります。憎くて噛みつくわけではないので、仲よく遊んでいても噛みつくことがありますので、口のそばに置かないことです。子どもを抱っこして、噛みつく癖がある子は先生の肩でもストレスがあると噛みつき、噛みつくことでストレスを軽減させようとするので、止めないとだめです。ドイツでは、おしゃぶりをさせているので、年長までおしゃぶりしている子もいますし、散歩しながらおしゃぶりしている子もいました。噛みつきが防げることと口呼吸をさせる。日本は、歯医者が歯並びが良くないのでとしないが、外国では積極的におしゃぶりをして、マイおしゃぶりが置いてある、噛みつく癖がある子は腹が立つと噛み締めて、人には噛みつかない。日本の場合は、状況、場所、相手によって先生が当然中に入らないと。間に入って、距離を置くことです。ふっと我に返ると止めるので、説得しても意識してやっているわけではないので、集団があるとストレスがあるので気を付けてください。

質問が最後までいかなかったが、考え方を答えていると、こう考えるのだと自分の中で考えてみてください。現場の中では、いろいろなことが起こると思うので、基本の考え方を学んでおかないと、事例だけ積み重ねても仕方ないので、そういう場面に当たった時に、どう対処したらいいかをそれぞれ考えたり、職員同士で意見を交換して、共有することが大事だと思います。乳幼児教育はどの時代の中でも大事な場面で、皆さんは関わっているんで、ぜひそういう風に私は地位を上げることをライフワークとしていきたいと思っていますので、皆さんもどうしたらいいかを考えてください。これだけ悩みが出るのは、真剣に考えているからだだと思います。悩みながらも、いい保育ができるようになってくるといいと思います。どうもありがとうございました。

本稿は、2022年12月13日に開催した「第56回保育環境セミナー」のQ&Aの内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)